



——第6回 剪定のための道具——2016.10.3

～～田舎(家)に帰れば「花の季台」がある～～

家族が「帰郷するのが楽しい」と思う生け垣造りをしましょう。剪定の目的は、主に美しい樹形を作るとともに、病気や害虫に対する抵抗力をつけ、不要な枝を整理し、正常な枝の育ちを助けることです。また、枝の切り戻しは、木の老化を防ぎ、若返りを図り、好みの樹形に仕立てます。

「これだけは揃えましょう」

アンケートでは 65 歳以上の家庭は剪定道具がありました。素晴らしい！

○植木バサミ

細かい枝切りには欠かすことのできないハサミ。仕上げ作業に使います。

○剪定バサミ

刃の形が「切り刃」と「受け刃」が半円の弧状になっていて、各種市販されています。購入の際は手に取って自分に合ったものを選びましょう。使い方は**枝を挟み込み、向こう側へ押し込む**ように回しながら切ります。



○刈込みバサミ

両手で扱う大型のハサミで、枝を 1 本 1 本切るのではなく全体的に樹形をつくるのが目的です。刃渡りが長く、柄が長いほうが、腕の疲れがないので、作業が楽でしょう。使い方は**両手を同時に動かすのではなく、片方の手で柄の中ほどを握って固定し、もう一方の手を動かします**。

○剪定のこぎり

剪定バサミでは切れないような太い枝や太い根などを切るときに必要です。**折り畳み式の片刃の小型**のものでいいでしょう。使い方は、切り取る枝の先のほうを一方の手でしっかり握り、手前に引く際により力を込めます。

○竹ぼうき

家庭のごみ用のホウキは腰が弱く、剪定で出てきた枝葉の処理には手間がかかります。竹ぼうきは腰が強いため作業が早く終わります。剪定作業が終わった生け垣を掃く時にも使います。

○小型電動トリマー

サツキ、ツツジ等の小枝を刈込むときに便利です。(作業が早くきれい)

※参考資料「緑化管理者養成講座」